

景況実感調査(2019年5月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 19日稼働となり、対前月比1日減なりに売上、数量とも微減となった。4月末の薄板三品在庫が450万トンを超え、需給バランスからしても過大となり、価格維持力からも危険水準だと思われる。小ロット、短納期対応力を生かして、少しでも売上を作らなければいけないにもかかわらずトラックの手当て、運賃の上昇は相変わらずで、難しい局面だ。
- ② 年明けから月を追うごとに、販売環境は悪化しているように感じる。ただし、4月はGW前の仮需的な現象により多少は対前年及び対前月比で増えたが、5月はその反動もあり落ち込みが激しい。市況を下げずにここは我慢することが大事。
- ③ 5月は前月比微減。大型連休で稼働日が減少したことが影響したと思われる。4月末の薄板三品在庫も上昇しており、453万トンと異常な在庫量となっている。在庫量の調整が価格維持のためにも急務である。
- ④ 依然として我慢のしどきである。価格を上げられない。需給バランスも偏り始めている気もする。情報収集は抜かりなく行い、取りこぼしなく数量維持に努める。

中板

- ① 当社の5月販売量は4月末の薄板三品在庫がリーマンショック後並みに大幅増加したことに呼応するかのよう、過去10年で最低水準の結果に終わった。

厚板

- ① 産機ユーザーからの受注は安定しているが、大型連休の影響により出荷重量が前月比減少した。建機ユーザーからの受注は低位にて前月比横這いに終わっている。中国、アジア太平洋における市場縮小の影響は、現状こそ現地生産の減少に留まっているが、今後本邦内生産への影響がどの程度あるのか注視したい。土木案件は受注がほぼ止まっており、かつ、いつ回復するか見通しが立たない状況。素材販売は先月比大きく減少した。メーカーが長期休暇前に在庫引き取りを要請した反動が顕著にて、6月はその影響こそ剥落するものと見られるものの、需要自体が弱いことから拡販は期待できない。日本製鉄が5月31日に5円の値上げを発表したが、スケジュール感が明確でないこともあり駆け込み需要には繋がっていない。在庫はメーカー側の引き取り要請要因によって先月に引き続き1割増加した。

—舟安开形鋼

- ① 長期休暇後、日ごとに荷動きは閑散化し、結果各指標は10%減となった。近頃、人並みに人手不足の波に晒されていたが、取り合えず一息ついた5月であった。市況の表立った下落が見られなかったのは閑散とした荷動きが一因ではないか。

II开形鋼

- ① 5月の倉出しはマイナスで、中旬以降に引合いは減少した。6月も荷動きは悪い時期なので現状の市況維持に努める。

異形棒鋼

- ① 店売りの動きは例年通りこの半年で一番悪い。単価は店売り在庫が少ないので横這い。
- ② 製品在庫は4月に続き横這い。荷動きは5月連休明け以降さらに悪化。苦しい状況が続く。

平鋼

- ① 在庫(定尺)商売は伸びず、低調のまま。利益も数量も上がらず苦しい状況。加工は良いとは言えないが建築、土木向けが多少あるので工場が止まることはない。夏以降の需要に期待したい。
- ② 大型連休のため稼働日が少ないのもあるが、荷動きも非常に悪い。連休明けも変わらず低調。荷動きが悪いため在庫も多い。価格は当面様子見か。

車巻開形鋼

- ① 大型連休の前後は注文が集中し、稼働率は上昇。通常、閑散期だが本年に限っては荷動き活況。5月後半は落ち着き始めた。
- ② 締めてみるとそれほど悪くないが、感覚はかなり悪い。
- ③ 例年は閑散期だが、今年は前月より高稼働が続いている。

鋼管

- ① 前月が好調だった分、連休の影響もあり数量、売上ともに減少した。市況は仕入れ高から横這いが続いている。
- ② 受注は悪くないが、出荷延期が多く売上が増えず、在庫もやや増加。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車を中心に国内は比較的堅調だが、中国経済の鈍化で建機関連や工作機械などに影響が見られ、全体的に停滞ムードとなっている。店売りについても特に変化なく、様子見状態。市中在庫は供給タイトが解消されてきており、適正水準をやや上回る状況。市況は現行値を維持している状況。
- ② 店売りに関しては低調な動きが続いていて、今年の5月は大型連休となったため稼働日数も少なく、月単位でより低い数字になった。
- ③ ゴールデンウィーク明け、売上が減少。粗利が10%以上減少。

磨棒鋼

- ① 一部の自動車、建機向けを除き、大口の紐付き物件は調整局面が続いている。回復は8月以降ともいわれているが、確証もなく先の見通しは不透明である。店売りは大きな落ち込みはないものの、大口のスポット受注も少なく、当用買いの小口を拾い集めている状況。素材となる特殊鋼の供給が急速に回復し、供給過剰の環境となっているが、市況価格への影響はまだ出てきていない。

その他

<鉄スクラップ>

- ① 稼働日も少なかったが、それにしてもスクラップ発生も悪く、荷動きの悪い一か月だった。6月にかけても国内メーカーは減産。輸出向けも思わしくない状況で、このまま荷余り感が続くともう一段の値下げも考えられる。

<金属表面処理加工>

- ① 5月の紐付きの扱い量は予定通り。物件物の予定が6月にスライドしたが、スポットのまとまった物量があり処理量としては計画通りとなった。6月はタンク向け鋼板、橋梁用形鋼の物件物を中心に同水準での操業予定。来月より早めの熱中症対策を実施する。